

## パッションフルーツの鉢吊り下げ式養液土耕による新たな露地栽培法

利用対象：県内全域の生産者

亜熱帯果樹パッションフルーツは、露地でも1年1作体系の栽培が可能な果樹です。従来の仕立て法「逆L字仕立て」では、3m以上の大きな苗でないと10a当り1tを超える収量は得られません。主枝（主枝長約3.8m）の完成に多く日数を要するためです。そこで、安定的な収量が得られ、需要の高い夏果が多く収穫できる新しい栽培方法について研究し、「鉢吊り下げ式養液土耕栽培」を考案しました。

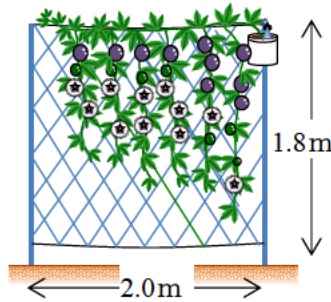


図1 鉢吊り下げ式養液土耕栽培の図  
(植栽間隔：1.5m×2.0m、本数：330本/10a)

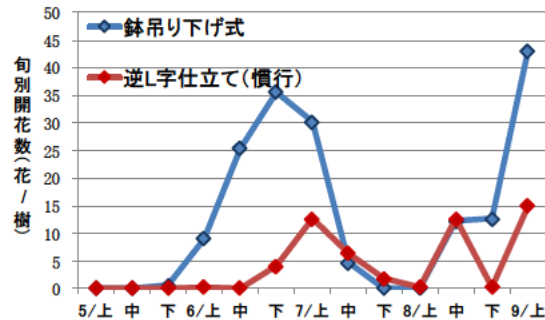


図2 仕立て方法の違いと開花状況 (H30年)

表1 仕立て方法の違いによる収量及び果実品質 (H29年及びH30年)

調査年度	H30							H29
	平均果実重 (g)	1樹当り収量 果数 (果)	1樹当り収量 重量 (kg)	10a当り換算収量 果数 (果)	10a当り換算収量 重量 (t)	果実品質 Brix (°) 酸含量 (%)		低着色 果率 (%)
鉢吊り下げ式	66.4	68.2	4.5	22,506	1.49	18.2	1.93	48.5
逆L字仕立て	74.2	22.0	1.6	7,260	0.53	19.7	2.25	80.3
有意差	ns	**	**	**	**	**	ns	**

注) t検定により有意差(\*\*1%)あり。なお、調査は果実重、収量、果実品質(7月下旬～9月上旬に随時)をH30年、低着色果率はH29年に実施。

鉢吊り下げ式養液土耕栽培法は、露地において従来の逆L字仕立てと比べて、早期に多くの開花と収穫ができ、果実品質も高く10a当り1.3t程度の収量が得られる栽培方法です。

表2 鉢吊り下げ式養液土耕栽培の労働時間モデル  
(単位：時間/10a)

月	栽培管理							月計
	植付	受粉	誘引	除草	かん水施肥	収穫	伐採	
4月	200							200
5月		7	2		2			11
6月		35	14	1	1			51
7月		18	27		2	7		54
8月		120	18	1	1	23		163
9月		15			2	15		32
10月					1	10		11
11月					1	10	100	111
合計	200	195	61	2	10	65	100	633

表3 鉢吊り下げ式養液土耕栽培の経営モデル  
(単位：円/10a)

項目	金額	摘要
粗収入	1,560,000	(収穫果数は約18,500個) 1,300kg×80%(商品化率)×@1500円
減価償却費	228,259	設備名 取得額 耐用年数 償却費
		棚設備 525,403 8 65,675
		収穫ネット 101,000 5 20,200
		かん水設備 274,577 8 34,322
		液肥ユニット 148,408 8 18,551
		防草シート 129,200 3 43,067
		プラ鉢等 232,220 5 46,444
		計 228,259
生産資材費	185,960	肥料: 液肥、元肥 42,608
		繕材料: 誘引用具、収穫用具 20,000
		植栽資材: ネット、培土 123,352
出荷販売費	45,000	販売資材 販売用袋バック等 45,000
生産費合計	459,219	
所得	1,100,781	労働報酬単価(円/時間) 1,739

本栽培法は、県内全域で栽培可能ですが、降霜期

は枯死します。水源の確保が必要です。また、開園時には約140万円/10aの設備費が必要です。初期投資が少し多くても、高品質で高い収量を望む方に向いています。

お問い合わせ先	紀南果樹研究室 中央農業改良普及センター	駒田達哉、須崎徳高 西川豊	電話 05979-2-0008 電話 0598-42-6707
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm (学会発表要旨) 熱帯農業研究第11巻別号2、41-42P、須崎ら		